

3 成果と今後の課題

(1) 成果

本年度は人数の少ないミニサポート会議をたびたびもつことができた。そのため、課題が出てきたときにすぐ会議をもって対応を協議し、指導に生かすことができた。

サポート会議等の後に、その内容についての資料を配付して全教職員に報告することで、児童及び家庭の現状や何が課題なのか、そして教師がどう指導・援助していけばいいかの共通理解が得られ、研修の一助とすることができた。

事例検討会では、全教職員が課題を抱えた児童の実態を把握し、指導の方向を協議することができた。そのため、学校全体での共通理解を図ることができ、このような課題を抱えた児童には、こういう指導をしていけばいいのかということをも具体的に研修することができた。また3～4人のグループでの話し合いを取り入れたため話がしやすく、また内容的にも深めることができた。

山口県教育研修所ふれあい教育センターから2回来てもらい、専門的な指導をいただくことができた。WISK などの客観性の高い検査を受けての指導や、専門的な立場からの指導は、課題を抱えた児童に対する方針が明確になり、指導・支援に非常に有効であった。

(2) 今後の課題

教育相談は、時間がかかるわりには、効果的な実施があまりできていない学年もある。効果的な教育相談をするにはどのようにしたらよいかについての研修が今後必要である。

スクールカウンセラーの活用が一部の者にとどまっている。児童理解や児童に対するカウンセリングの仕方を学ぶ上からも、様々な教員の活用が今後望まれる。

児童の課題についての対応は、様々な場面で前進させていくことができた。今後は、講師を招聘しての研修の場をもち、全教職員の力量を高めていくことも考えていきたい。